方谷學舎高等学校 野球部通信

球學道

— 野球から、人生を學ぶ —

発行日 令和８年９月28日

No. 第３号

文責 小西

１．今月の野球部 — チームの現在地

秋季県大会は、朝日高校に敗れ、悔しい結果となりました。そして大会後、山本先生が体調不良と家庭の事情により退職されることとなりました。私自身、この学校に勤務するようになってから、山本先生とは学校改革をともに進めてきた同志でもあり、寂しく、残念な気持ちはあります。振り返れば、グラウンド、職員室で山本先生と話していたことのほとんどは、生徒のことでした。「この生徒をどうしたら成長させられるだろう」「この選手には、今どんな言葉をかけるべきだろう」「卒業した時に、どんな人間になっていてほしいか」時には意見が違うこともありましたが、根底にあったのは、いつも「生徒を成長させたい」という思いでした。だからこそ選手たちには、山本先生が退職されるという事実だけを見るのではなく、本気で自分たちに向き合ってくれた大人の姿から何を学び、それをこれからの自分たちにどうつなげていくのかを考えてほしいという話をしました。

今後の新しい指導体制については、保護者会で改めて詳しくお話しさせていただきます。現在は、これまで大切にしてきたものを引き継ぎながら、少しずつ新しい取り組みも始めています。体重管理、夕食時の食事量の確認、補食の充実、野球日誌の作成など、選手が自分自身を管理し、成長を自分で確認できる仕組みを整えているところです。

監督が代わったから、すべてを変えるわけではありません。山本先生が選手たちに本気で向き合い、伝え続けてきたものを受け継ぎながら、今の選手たちに必要なものを加えていく。それが、私たちの役割だと思っています。私たち指導者も、決して完成しているわけではありません。悩みながら、選手と向き合いながら、より良い方法を考えていきます。

今回の敗戦も、監督の退職も、選手たちにとって大きな出来事です。しかし、だからこそ問われます。「ここから、自分たちはどうするのか。」人が変わる時、環境が変わる時こそ、自分自身が成長する機会です。保護者の皆様にもご心配をおかけしていることと思いますが、選手たちの成長を一番に考え、一つひとつ改善しながら、新しい方谷學舎高校野球部をつくっていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2. 進路は「合格」がゴールではない — その先で活躍するために

進路については、以前から野球部として「最重要視していることの一つ」として、選手たちに繰り返し話をしてきました。

なぜなら、進路選択は単に「次にどこへ行くか」を決めるだけではなく、これからの人生に大きく関わる選択だからです。一人ひとりが持っている可能性を、どの場所ならさらに伸ばすことができるのか。その「自分が活躍できるフィールド」を真剣に探さなければなりません。だからこそ、安易な妥協はしてほしくありません。**「妥協することは、自分の可能性を自分で狭めることにもなる」**からです。

しかし、３ 年生と話をしていると、まだ進路に対してどこか「何とかなるだろう、先生が何とかしてくれるだろう」という感覚がある生徒もいます。

野球部の選手たちが、この ２ 年半を野球に打ち込んできた一方で、同じ年代のライバルたちの中には、その時間を勉強や資格取得など、自分の進路のために費やしてきた人もたくさんいます。実際に本校を卒業した生徒で大学に入り、周りとの圧倒的な学力の差に対して、もがいている生徒もいます。その差を理解した上で、ここからは**野球に注いできた情熱や集中力を、進路に向けなければなりません。**

最近、本校の先生方ともよく話題になるのが、**引退後の３年生の姿**です。引退を境にスイッチが切れてしまったように見える生徒と、次の目標へ切り替えて動き始める生徒。その差がはっきりと表れています。特に心配しているのは、進路について、「先生が動いてくれるのが当たり前」になってしまうことです。

大学や企業とのご縁も、決して自分一人の力だけで実現しているものではありません。先生方が連絡を取り、相手先が時間をつくり、多くの方がその生徒の将来を考えて動いてくださっています。厳しい言い方をしますが、現在の3年生の進路のほとんどは自分の現在の力以上の機会を、周囲の方々の支えによっていただいたものです。

それを忘れ、大学や企業に対して「自分が呼ばれたから行ってやっている」というような受け身の姿勢や立ち振る舞いになってしまえば、せっかくのご縁も自分自身で失うことになります。

特に今の ３ 年生の中には、本校への転入を経験した生徒もいます。その時にも、本人が知らないところで、先生方、学校関係者、保護者など、多くの方が動き、新しい環境で再び頑張ることのできる機会をつくってくださったはずです。だからこそ、今一度、**「今の自分があるのは、自分の力だけではない」**ということに気づいてほしいと思っています。

苦しい練習を乗り越えてきたこと。結果が出なくても努力を続けてきたこと。仲間のために行動してきたこと。高校野球で培った力は、野球を終えた瞬間に価値がなくなるものではありません。

むしろ、その力を次のステージでどう生かすかに、高校野球をやってきた本当の価値があると思っています。

人生の岐路に立った時、楽な方へ流されるのではなく、「自分はどうなりたいのか」「そのために今、何をしなければならないのか」「誰のおかげで、この機会をいただいているのか」と自分自身に問い、行動する。そこまで本気で向き合えば、表情も、言葉も、日々の行動も変わってくるはずです。

そして、これは３年生だけに伝えていることではありません。１・２年生も、進路はすでに始まっています。日々の授業、成績、生活態度、野球への取り組み。その一つひとつが、将来の選択肢につながっています。

大切なのは、「どこに入るか」ではなく、「そこで何を学び、どう成長し、どのように活躍するか」。そして、支えてくださった方々への感謝を、次の場所での言動や頑張りによって返していくことです。

指導者からも、３ 年生には改めてこのことを伝えていきます。保護者の皆様にも、進路が決まったから安心ではなく、「ここからがスタートだ」「周囲への感謝を忘れてはいけない」ということを、ぜひお話しいただければと思います。

高校野球で培った情熱と粘り強さ、そして感謝の心を、次の人生へつなげる。



3.「守破離」— まずは素直にやってみる

教育現場で働き、野球の指導をしていると、改めて「守破離（しゅはり）」という考え方の大切さを感じます。

「守」＝教えられたことを素直に守り、基本を身につける。

「破」＝基本を身につけた上で、自分なりに工夫する。

「離」＝経験を重ね、自分自身の形をつくる。

大切なのは、この順番です。

今は YouTube や SNS を開けば、プロ野球選手やさまざまな指導者の打撃論、投球フォーム、トレーニング方法を簡単に知ることができます。自分から学ぼうとすることは素晴らしいことです。しかし、昨日はこの選手、今日は別の選手と、流行しているものに次々と飛びつき、毎回のように打ち方や投げ方が変わってしまっては、何が自分に合っているのかさえ分かりません。そもそも、プロ野球選手と高校生では、身体の大きさも筋力も経験も違います。同じ高校生でも、一人ひとり身体の特徴や課題は異なります。「誰かに合っている」ことと「自分に合っている」ことは同じではありません。

だからこそ、まずは「守」です。教えられたことを素直にやってみる。そして、すぐに結果が出なくても継続する。その積み重ね

があって初めて、自分なりに考える「破」が生まれ、その先に自分自身の形である「離」があります。

「自分で考える」と「最初から自己流でやる」は違います。

これは野球だけでなく、勉強や仕事、社会に出てからも同じです。情報があふれる時代だからこそ、流行を追い続けるのではなく、一つのことを継続し、自分のものにする力を身につけてほしいと思います。指導者や YouTube が自分に合った答えを与えてくれるわけではありません。教わり、続け、考え、試す。その繰り返しの中で、自分に合ったものを自分自身で獲得していく。それが「守破離」であり、成長の姿だと考えています。

4.田口壮さんに学ぶ「誠実さ」―人のために動ける人になるー

昨年、2026 年 2 月 21 日（土）。卒業式を終え、学校、グラウンドにはもう 3 年生（卒業生）の姿はなく、1・2 年生（現2・3年生）だけで新しいチームが動き始めた日、世代が変わったことを実感するとともに、寂しさを感じる一日でもありました。そんな日に、私自身改めて「人としてどう在るべきか」を考えさせられる出来事がありましたので、球學道に書かせていただきました。

前日の夕方、メジャーリーグでも活躍された田口さんが練習に来てくださっていました。その際、山本監督が何気なく、「この生徒のここを、もう少し見てあげてほしい」とお伝えしたことを覚えてくださっていたようで、翌日もその選手を指導するためにグラウンドへ足を運んでくださいました。

片道 3 時間、往復6時間の道のりを、2 日間続けて。

簡単にできることではありません。世界の舞台を経験された方が、方谷學舎高校の野球部の生徒のために、目の前の高校生一人のために、自分の時間を使ってくださる。その姿から感じたのは、野球の技術以上に「誠実さ」でした。頼まれたことを覚えている。人との約束を大切にする。そして、相手のために実際に行動する。言葉ではなく、背中で「人としてどう在るか」を示してくださったように感じました。同性であっても、思わず惚れてしまうような人物だと感じました。

もちろん、メジャーリーガーとして活躍された背景には、並外れた努力と実力があったはずです。しかし、それだけではなく、こうした**人柄や誠実さが人を引き寄せ、信頼を生み、新たなご縁や機会につながってきたのではないか**と思います。

田口さんの中には、きっと「自分はこういう人間でありたい」というものがあり、それを言葉だけではなく、日々の行動で示されているのだと思います。前回の球學道でも書かせてもらった内容でもありますが、野球部で大切にしている、「誰も見ていない時に何をするか」ということにもつながります。

「誠実さ」は、すぐに数字や結果として表れるものではありません。約束を守る。頼まれたことを忘れない。人のために時間を使う。感謝を伝える。誰に対しても丁寧に接する。そんな小さな行動の積み重ねが、その人自身をつくっていくのだと思います。

野球が上手いだけではなく、「この人のためなら力になりたい、この人のことを心から応援したい」と周囲から思ってもらえる人になる。

そして、この話は選手だけに向けたものではありません。私たち指導者自身も、田口さんの姿から学び、目の前の一人のためにどこまで誠実に向き合えるのかを問い続けなければならないと感じました。



人のために動ける人になる。

誠実な行動を、一つひとつ積み重ねる。

その積み重ねが、野球だけではなく、その先の人生を豊かにしていくのだと思います。

5. 総監督から（小谷理事長）

子どもの成長やチーム力の向上は、生徒が発する『言葉』でわかります。練習中、試合中に聞こえてくる『言葉』が変わらなければ、『練習』や『寮生活』での人間力のステージアップができているとは言えません。つまり、発せられる『言葉』を通して心の成長、思考のレベルアップがわかるものなのです。

第 80 回選抜甲子園に初出場した前任校のチームが戦った秋の県大会準決勝。岡山理科大学附属にリードされて迎えた確か 5 回のグラウンド整備の時間だったでしょうか。ベンチの中で選手同士が声を掛け合っている言葉の中に、「俺らは、野球だけやってきたんじゃない、人間を鍛えてきたはずや・・・だから負けるはずがない。」そんな意味の言葉が飛び交っていました。当時の野球部の目標は『いいパパになれ』。つまり、一生をかけて自分を磨き。人格形成に向かう人間であれという意味の「野球道」を説いていました。そもそも 6 人からはじめた野球部でしたので、『甲子園』など夢のまた夢、ラグビー部を借りて試合をしていたレベルでしたのでロが裂けても言えませんでした。もちろんはじめから「アマチュア野球」「高校野球」は『教育の一環』『人間過形成の道場』という考え方をしていましたので。日常の生活習慣、思考習慣を徹底していきました。

彼らは見事、その劣勢を跳ね返して逆転。中国大会を勝ち取ったのでした。

そうした野球部の方針に共感くださる中学校の指導者が増え、決して突出したスキルはないけれども、年々少しずつ生徒が増えていきました。その頃、ご縁をいただいた指導者のお一人が、山本克也先生です。

地域とのふれあい、子どもたちとのアシスタント活動、クラスのレベルアップのリーダーとして「練習よりも人格形成」「応援される人間、愛される人間」に向けて徹底的に野球以外の幅広い活動を展開したものです。選抜甲子園が決まった冬でさえ、地域の子どもたちとともに「地域セミナー　スキー教室」を例年のように開催し、野球部生徒が子どもたちをサポートするアシスタントで活躍し、それを NHK ニュースで取り上げられると、いろいろな方から「甲子園前にけがをしたらどうする？」と非難轟々。それでも「教育だから、人格形成だから」とスタンスを変えることはありませんでした。

野球バカでは、社会では通用しません。野球を通して「人格」を高める。その成長の証が『言葉が変わる』なのです。そういう意味では、現在のチームはまだまだ初歩的な段階と言わざるを得ません。

6.10 月の主な予定

日程	内容
10 月 3 日（土）	野球部保護者会　16:00～ @本校視聴覚室教室
10 月 11 日（日）	練習試合 VS 滝川第二高校 @滝川第二 G （2試合）
10 月14～16日	修学旅行（2年生）@沖縄
10 月 15～16 日	特別活動　1・3年合同キャンプ @国立吉備青少年自然の家
10 月 17 日（土）	第3回オープンスクール　野球部体験会　13:00～ @高梁運動公園
10 月 18 日（日）	練習試合　VS 明石清水高校　※詳細は決まり次第、ご連絡させていただきます。
10 月 26～29 日	中間考査

※高梁運動公園・学校グラウンドを中心に練習を行います。予定は学校行事、相手校、グラウンド状況等により変更となる場合があります。また、提出物が未提出の場合は練習に参加できません。野球だけでなく学校生活を大切にすることも、野球部として大切にしていることです。保護者のみなさまからもお声掛けをお願いいたします。